

歯つらつ

2016年7月

244号

～発行所～

齋藤歯科診療所
由利本荘市美倉町 47-1
フシノヨハニ

0120-24-4182

FAX 0184-24-1440

www.saitoshika.net

～診療時間～

曜日:月曜日～土曜日
時間:午前 9:00～1:00
午後 2:00～6:00

～休診日～

日曜・祝日
第2・4木曜日

現在、骨粗鬆症、変形性骨
炎、腫瘍の骨転移、多発性骨
髄腫、骨形成不全症などの疾
患の予防と治療のために、ビ
スホスホネート系製剤（以下
BP製剤）の内服や注射をし
ている方がおられるかと思
います。

この薬剤を服用している患
者さんに歯科治療を行うと顎
骨壊死を引き起こすことがあ
ります。初めて報告されたの
はアメリカにおいてで、二〇
〇三年のことでした。

その後報告される症例は増
え、この疾患はビスホスホネ
ート系製剤関連顎骨壊死（B
RONJ）と名付けられました
た。

BRONJと関係する歯科
治療は、抜歯等の口腔外科手

ビスホスホネート系製剤と顎骨壊死

術、神経の治療、義歯による
褥瘡などです。

なぜ歯科治療と関連するの
かという点、服用中に歯科治
療を行うことで、稀に傷の治
癒が正常に起こらず、感染に
よる痛みなどがみられる場合
があるためです。



そして、進行すると骨の露
出がみられ、その部分が腐骨
となるなどの症状が起こるこ
ともあります。

BP製剤と関連する顎骨壊
死は、劇的な治療法がなく、

治癒しにくいと言われていま
す。

また、発症する仕組みも完
全には解明されていないのが
実状です。

BP製剤により、生活の質
を保つことが有効ではありま
すが、他の薬品同様、判明し
ていない部分もあるため、副
作用等も考慮する必要があります。

骨粗鬆症等により服薬が必
要となる場合には、服薬開始
前に口腔内の治療を終了し、
感染リスクを減らしておくこ
とをお勧め致します。

現在歯科治療中の患者様で、
BP製剤を服用している、あ
るいは追加で服用や注射をす
る方は、必ずお薬手帳を提示
して頂くか、スタッフにお知

休診日のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土	
	7月					1	2
3 休診	4	5	6	7	8	9	
10 休診	11	12	13	14 休診	15	16	
17 休診	18 休診	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28 休診	29	30	
31							

7月の休診日は右記の通りで
す。患者様にはご迷惑をお掛け
しますが、よろしくお願い致し
ます。

らせ下さい。

〈薬の名称〉

- ◎アクトネル
- ◎フォサマック
- ◎ベネット
- ◎ボナロン

◎ゾメタ点滴静注用 など



治療に際し必要があれば、医
科の先生方とも連携をして診療
を進めさせて頂きまますので、ご
安心下さい。
— 新田 —

ある日のスタッフ

今月は受付・事務の佐々木美妃です。

私は時々、旅行に出かけてリフレッシュするのを楽しみにしております。

最近忙しく、疲れもたまっていたので、久々に温泉に行くことにしました。

今回は、時間に追われずゆっくりしたいと思い、少し贅沢に露天風呂付き客室を探してみま

した。

できるだけリーズナブルに、でも満足感を味わえる宿をと思い、鹿角市の湯瀬ホテルを選びました。

四月に露天風呂付き客室を四室改装オープンしたということで、モニタープランで一泊二食一人一万三千八百円と、とてもお得でした。

食事は朝夕ともにバイキングでしたが、好きなものをお腹一杯食べられましたし、大浴場には露天風呂と半露天風呂もあり、

平日だったので人も少なく貸切状態で満喫できました。

また、決め手だった客室は新しいいわけではありませんが、源泉かけ流しの客室露天風呂が思っていたより広く、気持ちよく二時間も入り、最高のリフレッシュの時間となりました。

少し贅沢な気分を味わいたいとき、とてもおすすめの宿でした。



成人期に不足しやすい食べ物は食物繊維、ビタミン、ミネラルです。旬の野菜や果物、きのこ類や海藻をたくさん取り入れてみましょう。

コレステロールの値が高い方は、ひき肉やソーセージなどの肉類よりも、魚や大豆製品を多く取り入れてみましょう。

また、アルコール摂取については、近年、ワインは抗酸化作用のポリフェノールが含まれており健康的との情報がありますが、どの食材でも取り過ぎは悪影響を及ぼします。内科疾患などで治療中の方は担当医と相談して下さい。

そして、運動習慣の見直しをしてみましょう。部屋

の中でストレッチやラジオ体操を行うだけでも良いです。

毎日続けることが大切です。身体を動かし、より健康的な生活が心がけましょう。

次号は老人期についてです。(デンタルハイジーン10月号参照)



食育④ 成人期

前号に続き、食育についてライフステージ別にお話致します。シリーズ4は成人期です。

◎成人期の生活背景

・社会的責任が重くなり、労働時間が長くなる傾向があるため、自己の健康管理に費やす余裕が少なくなる

・結婚、出産、育児等により生活環境が大きく変化し、医療機関への来院が滞りがちになる
・健康診断では経過観察の数値

があるが、重度化していないため気にしないことが多く、全身疾患や生活習慣病の発症へとつながる

☆

☆

沈黙の病気といわれる歯周病は、自覚症状がないまま進行していき、気付いたときには口腔内の破壊が進んでしまうことも少なくありません。

歯の根が露出した場合、知覚過敏や根元のムシ歯が発現しやすくなるため、定期検査・処置が必要です。

さらに、成人期では仕事等での過度の飲食・飲酒、そして喫煙などにより歯周病は悪化しやすく、多忙により治療する回数は減ってしまいます。

そして、嗜好品を過剰に摂取してしまいカロリーコントロールができないと、メタボリックシンドロームになり、歯周病だけでなく、全身疾患や生活習慣病につながる可能性もあります。

このような食や生活習慣の改善には、定期的な健康診断とともに歯科での定期検診が重要です。